



## 総選挙にあたって

# 原発ゼロの実現 憲法を生かす日本をつくろう！！



【代表理事】 水野映一郎・植田金雄・伊達 郷右衛門

今回の総選挙の特徴は、「国民の怒りに追いつめられた解散」ということです。

多くの国民が願っている「消費税増税はやめてくれ」「原発はもういらぬ」「国民生活を根底から破壊するTPPの交渉参加はダメだ」「オスプレイの低空飛行訓練を止めろ」等の国民の声を一切聞かず、野田内閣は自公との「三党合意」の談合政治を進めました。直近の支持率は17.3%、不支持率は62.3%（『時事通信』調査）であり、これ以上政権を維持できなかったのです。

国民は多くは「民主党はイヤ」でも「自民党に戻るのはもっとイヤ」政治状況にあります。その受け皿を「第三極」としてマスコミが持ち上げているのが「維新の会」ですが、他の「第三極」との合流のなかで、政策がクルクルと変更され、「政党間の連携には政策の一致が重要」（78%／26日「朝日」）という国民の声に、「政治に一番必要なのは政策を語ることはない」

と開き直りました。政策も示さないで政権を求めるのは「白紙委任」と同じであり、極めて危険な選択です。

国政に最も大切なものは、国民の要求に基づく政治の実現です。国民生活擁護の政策を掲げ、その実現をめざすために奮闘する政党を見極めることこそ重要です。東電福島原発事故以後、多くの取り組みの中で私たちが学んだことは、「国民の暮らしと平和を守るのは、私たち一人ひとりが立ち上がり声を出すことから始まる」ということでした。

「アメリカいいなり」「財界中心」で60年続いた自民党型の政治もいよいよ行き詰まっています。今回の総選挙はこのゆがみを断ち切る本物の改革にとりくむときです。私たちの生活を破壊する流れを押しとどめ、安心して暮らせる未来をつくるため、力を合わせて総選挙に臨みましょう。

## わき起こる「原発ゼロ」の声 ルポ ～反原発11.11～



百里平和委員会：村田 深（茨城農民連 書記長）

午後3時前に東電本社前に行き、トップバッターでスピーチとコールをしました。

茨城行動をざっくり話し、水戸駅で2時間で300筆以上の署名が集まったことを話し、茨城県知事の態度があいまいなので東海第二原発廃炉署名に協力してほしいと訴えました。

途中から雨が強くなり、カッパを着ました。IWJ9の取材を受けました。動画がアップされているようです。

私から見える範囲では、東電本社前にいた人数は数百人程度だった気がします。

ただ、次々流れていく団体の行列を合わせると千人をこえた気がします。

その後、国会正門前に移動しました。

## 11.11 首都圏・国会周辺に10万人！

途中、あちこちで大音量のスピーチがこだましていて、霞ヶ関騒然、といった感じでした。外務省上から国土交通省の角の国会前」十字路に行くと どうやら正門前からの車道は封鎖され、歩道のみ？の行動だったようで、「歩道がいっぱいなので渡れません。三宅坂方面から行ってください。」と警察に止められて、会場から離れる人々の行列が続いていました。

私は、「いっぱい」だという反対側の歩道の様子を確認したかったので、桜田門⇒三宅坂⇒「国会前」へと相当の距離を迂回していったん十字路の反対側の歩道へ行きました。少なくともその時点では、そこの人ごみは少なくなっていました。そこから国会正門前の人ごみを掻き分けて三宅坂側へ抜けると、国会正門のすぐ近くで、人ごみが途切れました。

集会はすでに終盤になり、飯田哲也さんがスピーチしている声が聞こえました。全体を把握することは不可能でしたが、見た範囲で数万人はいるなど感じました。

午後3時から午後7時まで立ち通し・歩き通しは疲れました。

## 平和意見広告に賛同の声

県平和委員会事務所に届いています！

.....

つくば市／Y Aさん

「原発いらぬ！」意見広告に賛同します。個人ひとりです。3000円同封します。

『毎日一人で腹を立てています。自民・安部、また総理になるのでしょうか！顔を見るのも・声を聞くのも嫌いです。東京の石原・大阪の橋下、何であれが人気なのか！腹の立つことばかりです。最近テレビを見るのも苦痛です。新聞意見広告、よろしく願い致します。（2012.11.22）』

元会員から電話で／（11.27）

『意見広告賛同募集のチラシを見ました。平和委員会の皆さんは元気ですか。平和委員会の振込先に11月末までに振り込みます。』



【多くの人々の願い『さよなら原発』】



## 平和新聞

2012年11月25日・12月5日 合併号

2003号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会  
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館  
（郵送料月額120円）電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

## 平和かわら版

平和新聞茨城版 No. 641 合併号  
2012.11/25・12/5  
発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281  
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

# アジアの平和をどうつくる

## 日本平和大会 in 東京

米軍基地も軍事同盟もない憲法の輝く日本を、首都・東京からめざそうと、日本平和大会が11月23日（金）から25日（日）、東京都内で開催されました。



「アジア・太平洋の平和をどうつくるか。『抑止論』をのりこえて」のテーマで開かれた国際シンポジウムは、カンボジアから政府代表のノン・サカル氏が講演、ASEANがアジア太平洋地域の「平和、安全、安定の維持」に取り組んでいる事や、平和と安全保障に関する対話と協力の促進体になることを表明しました。シンポジウムでは、アメリカ、フィリピン、グアム、韓国、日本の平和運動代表5氏が報告しました。500人が参加しました。

2日目は「日米安保条約の廃棄で見えてくる平和と展望」のシンポジウムが開催され、沖縄県宜野湾市から伊波洋一元市長等が報告しました。また東京都知事選に立候補を表明した宇都宮けんじさんの挨拶がありました。都内各所で11の分科会が開催されました。

25日の最終日は、東京都福生市で閉会集会を開催。大阪は手作りオスプレイ30分の1模型をを披露しました。集会后横田基地に向け、約1時間のピースパレードが行ないました。

茨城県平和委員会からは7人、その他、茨厚労や全農林地本、その他の団体から5人参加しました。

# 34,861筆（通算271,573筆）

## 「東海第二原発廃炉を求める署名」

### 第5次提出 11月15日知事宛て

11月15日（木）、「東海第二原発の廃炉を求める県知事あて署名」の提出が行なわれ、15団体40人余が参加、県側は地域防災計画担当が出席しました。署名は、集約した団体代表がそれぞれに口頭で申し入れをしながら担当に手渡しました。

提出後、「県民センター」の田村事務局長が県防災計画の策定方針や策定状況について県側に質問しました。その後、質疑・意見交換に移りました。県は、「来年3月までに防災計画を策定する」と回答しましたが、「30km圏内の100万人の避難は非現実的」という声に口を濁しました。参加したお母さんは「子どもの甲状腺被曝調査の実施」などを求めました。県側の「必要性がない」という回答に参加者からの怒りも声が上がりました。

終了後、県庁11階で打ち合わせを行ない、来年3月に第6次提出を行い、30万をめぐすことを確認し、午後5時過ぎに散会しました。



## フォトジャーナリスト森住卓講演会

### 福島と世界の核汚染

2012年12月7日(金)

[受付]18:00

[講演]18:30～20:30

みなさんと写真映像を見ながら講演

[場所]つくばサイエンス/インフォメーションセンター

[参加費]大人1000円、学生500円

[定員]100名（事前申込制）

[問い合わせ先電話] 029-861-7320

主催:12.8 不戦のつどい実行委員会

## 土浦学習会 原発はいらない

=これからのエネルギーを選ぶのはあなたです=

主催:さよなら原発土浦地域連絡会

2012年12月8日(土)

午後4時から7時

土浦コープ2階会議室

講師: 歌川 学氏 (産業技術総合研究所)

入場無料 どなたでも参加出来ます。

## 緊急アピール

# 『政治の貧困・三つのこと』

・@いまの、政治状況は政治の混乱というよりも政治の貧困の最たるもので戦後政治の汚点を大きく塗り替えようとしている。

「カネで政治を買う」ということが、政治の貧困をまねくことはよく知られている。しかし、このカネは自分の金カネではない。国民の血税か賄賂である。戦後カネで政治を動かした横綱は田中角栄だった。田中のようにカネで官僚を牛耳り、国民には昭和の太閤秀吉と言われ、陰で金権腐敗の業をなした政治家はいない。

それに代わって現れてきたのが政治家がカネを使うのではなく、政府が政治を買うという「政治の貧困」である。原発や沖縄の基地がそれであり使われた金額は田中の比ではない。

政治のしわ寄せ（住民に嫌われるもの）をその地域の弱みに付け込み湯水のようにカネを流しこみ、否応なしに納得させる。

つぎの政治の貧困は政治家の質である。保革伯仲の70年代から、自民党が多数のタレント候補者を出したのが始まりである。また、90%近くの支持率を背景に小泉内閣が「チルドレン」候補者を刺客候補として出した。政治家の必須条件の政治信条がなく言わば、「ロボット議員」だ。メッキがはがれるのは時間の問題であった。

いまは、自分から「ロボット政治屋」になりたがっているのが特徴である。民主党の波の乗り当選した者が風向きが変わったから別の党から出る。何をか況やである。こんな無節操な者に日本の平和・外交・経済などの問題を任せるわけにはいかない。また、石原や橋本の「野合」の裏に隠されているものが国民のくらしと平和にとってどれほど危険なものであるかは、マスコミに惑わされず批判しなければならない。

三つ目はわれわれ国民の民主主義にたいする成熟度の問題である。選挙と言えは以前は買収選挙がつきものであった。最近では「主権者の1票は売らない」という国民意識が定着している。団塊の世代以上の人たちは男も女も定年まで「働きバチ」であった。現在は時間的余裕もあり社会的関心が強い。日本人の特性のひとつは勤勉性と思いやりの気持ちであり、もう一つは付和雷同しやすい弱点にある。しかし、政治意識も含めて日本人の知的文化水準は高い。

世の中良くも悪くもするのも私たちひとり一人の自覚と行動である。総選挙にあたってはお互いに気軽に話し合っ主権者にふさわしい判断を示そう。

(伊達 郷右衛門)

